

滋賀のアーカイブズ

《第4回県史編さんだより》

- ・【編集会議通信】 令和6年度編集会議の概要 ……………P.2
- ・【事務局だより】 研究誌『滋賀県史研究』の創刊 ……………P.3
- ・【事務局だより】 第1回県史講演会を開催 ……………P.3
- ・【事務局だより】 『県会日誌』等の公開 ……………P.3
- ・【湖国こぼれ話⑩】 ビワイチの起源—滋賀県と自転車— ……………P.4～5
- ・【資料紹介⑯】 明治期長浜の鉄道・汽船関係文書 ……………P.6
- ・【資料紹介⑰】 大津師範学校関係文書 ……………P.7
- ・催し物案内／利用案内／アクセス……………P.8

ISSN 2435-8223



「第1回ヤンマーアイアンマン・ジャパンインびわ湖大会 ポスター（1985年）」【寄11-23】

大津師範学校関係文書

当館は、二〇二三年度に滋賀大学附属図書館教育部分館が所蔵している師範学校に関する非公開の資料群を調査しました。「師範学校」とは、戦前において各道府県に設置されていた小学校教員の養成を専門とした学校です。

滋賀県では、一八七五年（明治八年）に滋賀県小学校教員伝習所が大津に設立され、同年、滋賀県師範学校となりました（一八七七年三月から八〇年四月まで滋賀県大津師範学校と改称）。本資料群は、県内の学校教育・教員養成の歴史を考える上で重要なものです。今回はそのなかから一部の資料をご紹介します。

①「困生教育方に付伺ひ奉る」一八八七年（明治一〇年）
師範学校が開校した当初の生徒履歴書を見ると、当時は士族や僧侶が小学校の教員になることが多かったようです。彼ら師範学校の卒業生たちは、地域の初等教育をリードする存在でした。

学校と県庁の往復文書の簿冊（「諸規則往復第三」）に、卒業生が一八七七年に県へ提出した「困生教育方に付伺ひ奉る」という資料があります。ここでは、経済的な理由などによって小学校に通えない子どもに対する教育方法が立案されました。県が制定した正規のカリキュラムを簡略化し、独自の教材を考案している様子がわかります。

このように明治初期の教育現場で教員がどのような

問題意識を持って教育に取り組んでいたのか、かような資料も本資料群には含まれています。

②「滋賀県師範学校 四年報」一八八〇年（明治一三年）

滋賀県の師範学校では、一八七九年になって「女子仮規則」を制定し、女子を対象とした教育がはじまりました。一八八〇年の滋賀県師範学校の報告書である「滋賀県師範学校 四年報」をみると、同年五月頃に「教授法等」を調査するために、京都府の女学校等へ師範学校の教員が出張していることがわかります。そして、九月に新たに「女子師範学科」を設置し、女性教員の養成が本格的に開始されます。校舎と寄宿舎は「男女混交せしめず」として男女それぞれ別の場所にありました。

しかし、この後、女子の師範教育は、廃止や再設置など様々な制度変更を経ることになります。ようやく一九〇八年に県立大津高等女学校（現在の県立大津高等学校の前身）と併設される形で滋賀県女子師範学校として分離独立しました。

③「教練日誌」一九三二年（昭和六年）

本資料群の内容は、ほとんどが明治期の規則や県庁との往復文書など校務にかかわる簿冊ですが、一点だけ昭和期の生徒が作成した資料がありました。一九三一年（昭和六年）の「教練日誌」です。

教練とは、学校で行われた軍事訓練（学校教練）のことです。一八八六年に新たに師範学校令が施行され、男子の師範教育は、軍隊組織をモデルとして厳しく規律化されました。一九二五年（大正一四年）からは学

校教練も課されることになりました。

「教練日誌」は、当番の生徒がその日の教練の内容とあわせて自らの所感を記録したものです。資料をみると、軍人である教官がそれに赤字で注意や評価をすることで生徒たちを指導していたことがわかります。この年には満洲事変が起きましたが、軍部の見解を生徒に喧伝している様子もうかがえます。

敗戦後、このような軍国主義教育は否定され、生徒の要求が授業に反映されるなど学校は様変わりしました。そして、一九四九年に発足した滋賀大学教育学部（現教育学部）に転換することで、師範学校はその歴史に幕を下ろしました。

【参考文献】

- 川崎源『滋賀大学教育学部百二十年史』滋賀大学教育学部同窓会、二〇〇一年。
- 木全清博『明治初期の滋賀の教育―近代教育成立史―』文理閣、二〇二四年。

（堀雄高）



「滋賀県師範学校 四年報」
滋賀大学附属図書館教育学部分館所蔵
(非公開)

催し物案内

【企画展示】

「大正時代の出発と湖国の発展」

—新聞でたどる文化・社会—

会期：1月27日（月）～4月24日（木）

時間：午前9時～午後5時（土・日・祝日は休館）

会場：県立公文書館閲覧室

県史編さん事業で調査取集中の新聞記事を中心に、明治・大正期の滋賀の様子を、日露戦争や米騒動、琵琶湖一周自転車競争、京津電鉄設立などのテーマから紹介します。【見学無料】



利用案内

【利用時間】

午前9時～午後5時

【休館日】

土曜日、日曜日、祝日

年末年始（12月29日～1月3日）

【閲覧方法】

①ホームページの「資料検索」から、閲覧したい資料を検索します。

②利用請求書に必要事項を記入して、しがネット受付サービス（本県インターネットサービス）、郵便またはFAXで提出します。

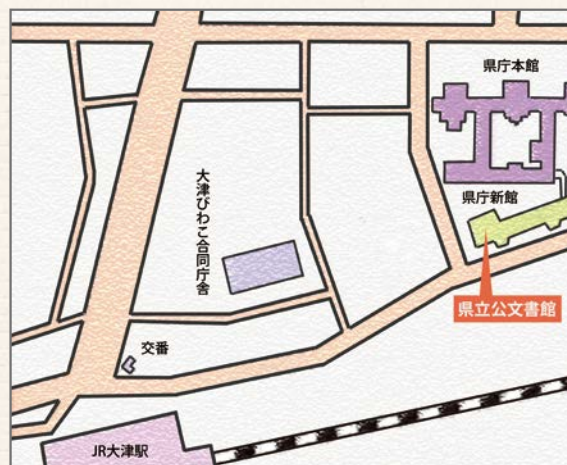
*利用制限情報の審査を行い、申請後三〇日以内に利用決定を行います（やむを得ない事情により審査期間を延長する場合があります）。

③事前に閲覧日を連絡の上、右決定通知書を持って御来室ください。

※目録の利用区分が「公開」の資料であれば、簡易閲覧として当日に利用できます。

【その他の利用】

- ・資料の撮影は、持参した機器で各自が行ってください（写しの交付もできます）。
- ・企画展示、自治体史・事典等の書籍は、審査なしで自由に閲覧できます。
- ・資料の保護のため、館内での飲食、鉛筆以外の筆記用具の使用は御遠慮ください。



- ① JR大津駅から東へ徒歩5分。
- ② 京阪電気鉄道島ノ関駅から山側（南南西）へ徒歩5分。

滋賀のアーカイブズ 第17号 令和7年（2025年）3月31日

編集・発行 滋賀県立公文書館

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

滋賀県庁新館3階

Tel：077-528-3126

Fax：077-528-4813

Mail：archives@pref.shiga.lg.jp